やまゆり

学校だより

令和6年2月26日
87号
学校長　杉本賢二

校　　訓　「和の心」
学校教育目標　「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 －気づき・考え・実行する－
校内研究重点　「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標　「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

祝！　3年生が「1名志望校に内定」しました

3年生「1名の志望校への内定が決定」しました。今までの努力の成果を発揮し、目標をかなえることができました。**おめでとうございます。**

志望校への内定を得るために学習・面接等に一生懸命取り組んできました。面接の練習では道志中学校で学んだことをしっかりことばにして、伝えることができていました。特に、若鮎祭で全校の縦割り班で「いじめ防止の表現活動」をしたことに対しての思いの強さや達成感を強く感じました。面接の指導をしているこちらも学ぶことの多い発言内容に、「内定はほぼ確実だ」と思っていました。**自分の興味や適性について深く考え、目標をもって強い意志と努力で取り組んできたことを忘れず、卒業・入学後も新たな目標をもって努力して下さい。**

学校教育重点目標　「居心地良く、やる気のある学級」→「確かな学力の育成」

QU・知能検査等の活用において全国トップレベルの力があると評価して頂きました

2月21日（水）に**「令和のやまなし教育活動モデル事業」の公開授業・研究会を実施**しました。

組谷先生の1年生の理科の学習指導を公開し、その後、**「義務教育課の在原課長補佐」・「八巻指導主事」、「知能検査の開発者で応用研究所、黒沢係長」、「早稲田大学高橋先生」**等に授業を参観して頂き、研究会で助言や指導を頂きました。

また、本校が活用してる知能検査を活用する計画がある**大阪市の教育員会の学力向上担当の方も授業や研究会に参加**しました。

それぞれの方々から、「学級の安定と活性化」を実現した学級で、「知能検査や学力検査」を活用して「個別最適で協働的な学習」による学習目標を達成する実践を高く評価して頂きました。

義務教育課の在原課長補佐さんは、**「いじめや不登校等の教育課題や先行き不透明な今後**

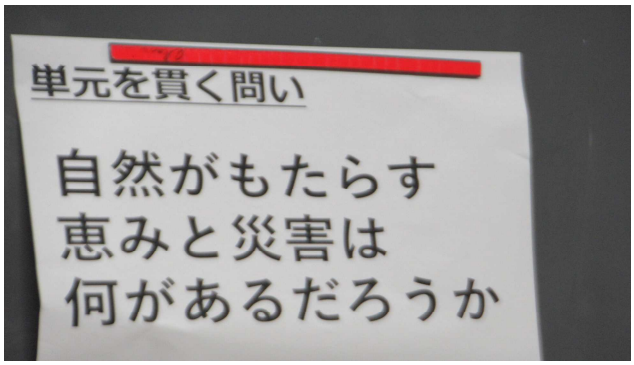
の時代を一人一人が、より良く生きていくための学習としてすばらしい実践であり、今後山梨県に広げていきたい。道志中にはその核になって欲しい」と力強く評価して下さいました。

1年生もそれぞれの生徒が、学習目標実現のために一人一人が自己分析をしっかりし、キャリアパスポートの計画に沿って努力し、協働して学ぶ姿を見せてくれました。

NINOという知能検査を11年かけてチームで開発した応用研究所の「黒沢」係長さんは、「開発から5年間に訪問した全国の学校の中で、最上級のレベルの実践をしている。この実践を全国に広げていきたい」と評価してくださいました。

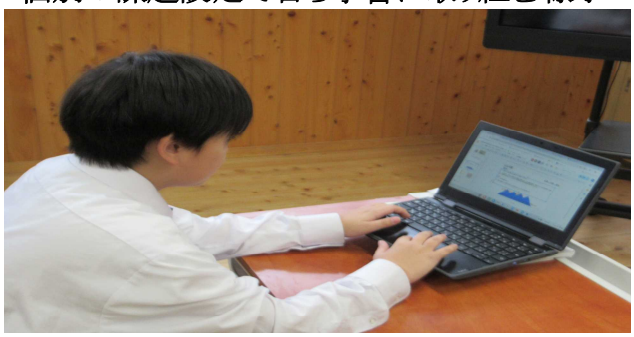
3月の最終日まで、そして次年度も「エビデンスを基盤に、教職員組織で協働実践する」研究を推進したいと思います。

単元目標を適え、主体性向上の課題設定



1年生の学ぶ意欲や協働性を高く評価

個別の課題設定で自ら学習に取り組む様子



必要な助言や指導をする組谷先生

在原課長補佐・八巻指導主事、道志小の先生方、鳴沢小の先生、村教委、早稲田高橋先生方

個人で学習したり、相談することを自分の判断で行う　　自分の考えや根拠を伝える様子

3つの班で自分の考えを相手に伝え、自分の成果物に取り入れるための交流の様子

NINO（学び取る力の検査）のデータと関連させながら、振り返る生徒の様子

研究会での指導・講評・今後の研究等について

在原課長補佐さん　※令和のやまなし教育活動モデル事業の担当者

○いじめや不登校等の教育課題の中で、個別最適・協働的な学びで学力の向上を図りらながら、教職員組織で教育課題を改善する糸口がたくさんあった。令和の山梨教育活動モデル事業に正面から取り組んで頂きとても感謝している。

○生徒も教職員も「ワクワク」しながら学ぶ姿勢が新鮮でとても素晴らしい。
今後も公立中学校の可能性を広げ、山梨県の教育の核になって頂きたい。

八巻指導主事さん　　※令和のやまなし教育活動モデル事業の担当者

○生徒一人一人が楽しみながら主体的に学んでいる。とても素晴らしい学びの姿だった。ICTの活用にも慣れている。キャリアパスポートの良さが個別の学習に生きている。協働的な学習でも、主体的に援助を求め協働できていた。QU活用の安定と活性化が学習の基盤になっている。

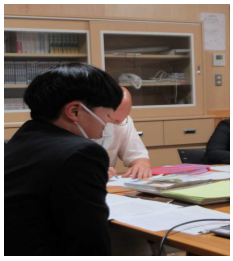
○キャリアパスポートのICT化の可能性と評価の研究を今後も続けて欲しい。

早稲田大学　高橋先生

○学習指導を通して、「学力の向上と非認知能力（学びとる力）」の育成を目指した先進的な研究である。
○公立中学校の多様な生徒の能力・スキル・見立て等の違いを、教職員で協働するために標準化検査のエビデンスを活用して協働実践し、教育成果を挙げている。生徒個人の自己理解、生徒同士、生徒と教職員、教職員同士等の理解や協働に役立っている。
○勘による自己理解が、検査のデータで確実なものになり、計画や思考の整理に役立っていた。苦手な能力活用でも、単元の中で時間をかければめあての達成が可能だと見通しを持てる。生徒の「やれそう・できそう」という気持ちは、学びの動機づけにつながる。個別最適な学習計画は、不安の解消に役立ち、主体性向上につながる。
○標準化検査の紙のデータだけでなく、面接・観察・パフォーマンス等を加味し、相談しながらデータを活用してることは重要。
○学習目標やその分析が明確であり、学習目標に影響がなければ「発表の支援」はOKとなる。目標と照らし合わせ、どの子にどのような支援が可能かを見極めていきたい。
○NINOの分析を生徒が自己開示していた。学級の満足度や人間関係の良さを象徴する場面だった。班を基盤とした学級の安定が、この場面でも大きな成果だった。
○データを生かして、強みで苦手を改善することも重要。しかし、苦手と承知して対面しながら、自分らしさを生かして改善・克服する事も重要。エビデンスの量の調節も重要だと思う。

応用研究所　黒沢係長さん（NINO開発者）

○WEBQUを活用した学級の安定と活性化を基盤に、NINO（学び取る認知能力検査）を活用した実践では全国トップクラスの実力がある。
○先行き不透明な時代を乗り越え、一人一人がより良く生きていくには「自ら学ぶ力の育成」が重要。知識はすぐに古くなる。今後の学習では、自ら学び続け、能力を高める基盤が大切になることの理解が大切。
○データを活用した自己分析や計画・協働から実力を発揮できている生徒が多い。
○エビデンスのデータを教職員が協働する共通言語として有効に活用できている。しかも、面接やパフォーマンスの力も共有し、指標に取り入れている。
○応用研究所のレポートに協力して頂き、全国の学校に発信できるレベル。
○本日の授業も、学習目標を明確にし学習活動の枠組みがしっかり構成されている。一斉・個人・協働等の自由度が担保され、発表し、振り返り、まとめる時間の確保もあった。指示も明確である。
○授業の振り返りで、生徒が「処理速度の強みを生かして・・」、「記憶力の強みを生かして・・」等、NINOの分析を生徒が口にしていた。NINO（知能検査）の開発者として有難かった。
○全体的に学力が高く、力のある生徒が多い集団。しかも、認知能力の伸びしろもある。今後も、弱みと強みに正面から取り組み、着実に取り組んでほしい。
特に、「どこが大事なのか」を常に意識させると学力は向上する可能性が高い。
○一人一人が持っている力を十分に発揮する学習指導と、研究におけるデータと発表の工夫を心掛けて頂きたい。



黒沢係長さん（女性）・大阪の教委